

公共投資プログラム運営監理強化プロジェクト

Project for Enhancing Capacity in Public Investment Program (PIP) Management (PCAP2)

ハイライト

- 巻頭言 ペタンク式事業運営監理
- PCAP2 最終年次のセミナー&研修報告
- 4年次の活動予定
- PCAP2 新業務調整員の紹介

第4年次活動スタート ~PCAP2 有終の美を飾る~

巻頭言

ペタンク式事業運営監理

チーフアドバイザー 奥村一郎

PCAP2の最終年次に突入しました。この原稿を書いている今、PCAP2の集大成ともいえる研修を実施しています。各県の県計画局職員を招いて、同職員が「各県の関係部署や事業責任者に対して、公共投資事業の運営監理方法を指導できるようなる」ことを研修目的としています。講師は全員計画投資省(MPI)職員が担当していますが、今やMPI独自のスタイルを確立し、質の高い研修を行うまでになりました。研修の雰囲気は上々で、時には議論が沸き起こり、時には笑いが渦巻き、演習では講師と参加者がともに真剣なまなざしで共同作業をしています。

今回の研修テーマはプロセス管理と財務管理です。年間予算策定プロセスを事前に決め、それを公共投資事業の事業責任者や関係部署に周知させることで、締切日までに事業申請させること。その後、各案件の事業審査を実施し、重要で効果的な公共投資事業をリストにまとめ、計画投資省に期日通り提出することを理想としています。また、財務管理面では、現状の公共投資プログラム(PIP)にかかる財務状況を把握し、財務安定性を確保することを目指します。これらの取組みを徹底させると、締切りに間に合わない事業はリストに載せない、あるいは財務安定性に影響を及ぼす新規事業には注意する等、これまでになく厳しい判断を行う場面も多くなります。それらに対する不安もあってか、多くの研修参加者が、「研修項目として理解したが、本当に現実のプロセスで使えるのか？ちゃんとしたデータや数字が揃っていないと誰にも説得できないんじゃないか？」と質問をしてくる。

話は変わって、毎日の研修終了後に県別対抗でペタンクをするのが通例となっています。ラオスで盛んなペタンクというスポーツ。簡単に言えば、「土の上でのカーリング」といったところでしょうか。

10メートル程の長さの土コートの上に目印を置き、3人構成のチーム同士がコート反対側からテニスボール大の鉄球を投げ、その目印に限りなく近づけるといふ競技です。競技スペースが狭い上に、とても上手い人が多いので、ミリ単位の違いで勝負が分かれることがあります。その時は、皆真剣。測定器なんてないので、そこらへんに落ちている枝や草を物差し代わりにして、地面に這いつくばって「どっちのチームの玉が近いか」決着するまで測定します。いったん決着すれば、競技者の中に副大臣が居ようが局長が居ようが、納得して競技を続けます。



真剣にペタンク計測中のMPIスタッフ

ペタンクにおける「枝や草」がまさに、現状のラオスでの公共投資事業のマネジメントツールだと考えています。まだデータや数字の整備が発展途上である中、いかに皆でコミュニケーションを取り、現場を注視し、納得するまで検証するか。いかに現地にある材料(数字やデータ)で、わかりやすく見せ、報告するか。そういった取組みを経て幹部や国民に説明責任を果たし、効果的効率的な事業を選び、実施していくことが必要であると考えます。

少しずつではありますが、MPIは上述の通り独自スタイルを見出して、現実的なPIP運営監理方法を全国に指導し、効果を出してきています。もちろん今後、国や県も経済成長や統計の改善につれて数字やデータも整備されるでしょう。でも、それを待つのではなく、今の段階から良い事業を作っていく、良いマネジメントをしようという気運が高まっているのを、研修から感じ取れます。

PCAP2 最終年次のセミナー&研修報告

～技術移転の山場を越えて～

(文：平良)

2010年11月1日、いよいよ、PCAP2最終年次の目玉である公共投資プログラム運営監理セミナー&研修が始まりました！本セミナー&研修プログラムは、(1)県計画投資局長向けセミナー、(2)県計画投資局&省庁計画局職員向け講師養成研修(TOT)、(3)県計画投資局から県の事業責任者への研修、(4)県計画投資局&省庁計画局への実地訓練(OJT)の4プログラムから構成されています。これらの研修を通して、対象組織が公共投資プログラムの運営監理に必要な知識と技術を習得し、来年度の年次予算策定のプロセスに沿って適切に予算を策定することを目指しています。

PCAP 2 最終年次研修/OJTプログラム

研修/OJT	日時	場所	期間	講師	受講者	研修目標
(1) 県計画投資局長向けセミナー	2010年11月上旬	ピエンチャン都	2日	計画投資省職員/PCAP2専門家	全17県の計画投資局長他(合計68人)	● 県計画投資局がPIP年次予算策定プロセス・財務マネジメントの意義と手法を理解する
(2) 県計画投資局&省庁計画局職員向け研修(TOT)	2010年11月上旬～12月上旬	ピエンチャン都	5日	計画投資省職員	計画投資局職員(全17県&主要8省庁の合計142人)	● 県計画投資局・省庁計画局が、PIP年次予算策定プロセスと各手法の使い方を理解し、PIP事業責任者に教えられるようになる
(3) 県計画投資局から県の事業責任者への研修(計画投資省は研修を補助)	2010年12月	各県・省庁	2日	県計画投資局職員	県の主要8セクター局の事業責任者他(合計816人)	● 県PIP事業責任者が、PIP年次予算策定プロセスと各手法の使い方を理解する
(4) 県計画投資局&省庁計画局へのOJT	2011年2～3月	各県・省庁	2日	計画投資省職員	計画投資局職員(全17県&主要8省庁)	● 県・省庁の計画投資局が計画投資省から必要な支援を受け、事業審査、相対評価、PIP年次予算策定を行う

PCAP2で初めての、局長向け実務セミナーの実施

2010年11月1～4日にかけて、全16県・ピエンチャン都の計画投資局の局長や副局長のみなさんを対象とした「公共投資プログラムプロセス&財務マネジメントセミナー」を実施しました。受講者のみなさんには、実際に電卓をたたいて各県の公共投資プログラムの財務状況を分析していただき、分析結果に基づき各県における財務面での中期的な改善の方向性や必要な活動内容をまとめていただきました。改善の方向性としては、全般的に①要支払い額を増やさないようにする、②支払期間を短縮する、③予算不足を理解したうえで効率的に予算を使う、という意見が出されました。ただし、一部の参加者からは、要支払い額の増加を抑えるために新規プロジェクトの額を抑制すれば、県社会経済開発5ヶ年計画の目標が達成できないとの意見も出されており、実務上で活用する上での課題が残っていることが予想されます。また、知事・副知事など意思決定者への研修も同時に必要とのコメントもあり、研修内容を公共投資プログラムの予算形成上で活用するには、意思決定者の理解を促す仕組みや、計画投資省から県への指示などが必要であると考えられます。



中部・南部県対象セミナー参加者 (11月1～2日)



北部県対象セミナー参加者 (11月3～4日)

これからは、県が主役です！

2010年11月8～12日にかけて中部4県・ビエンチャン都の計画投資局、15～19日にかけて北部・南部6県の計画投資局を対象とした講師養成研修をそれぞれ実施しました。PCAP2で初めて、県の計画投資局職員を技術の受け手ではなく送り手—講師—として養成する記念すべき大きな第一歩となりました。来月は自分たちが中心となって県の事業監督者に対する研修を実施するとあり、これまでとは真剣度が違います。内容一つ一つに対して熱心に納得がいくまで質問を繰り返し、また模擬演習では実際に舞台上に立ちプレゼンテーションの練習を行いました。演習を行う自信と責任感に満ちた顔は、まるで「これからは自分たちが主役だ」と言っているようで、強く印象に残りました。県計画投資局の、公共投資プログラム運営監視技術の送り手としての活躍が期待されます。



ODAカウンターパートファンド管理についての模擬演習を行うサバナケット県の計画投資局職員



業務フローを確認し、年次予算策定のスケジュールを立てる西村隊員(中央)とサラワン県計画投資局職員のみなさん

西村隊員（サラワン県計画投資局） ～セミナーの感想～

活発な議論、質疑応答等それぞれの参加者が非常に積極的に研修に参加していた印象を受けました。特に良かったと思う点は各グループにMPI職員の方々が補助として数名配置されていたことです。講義で聞き逃したこと、エクササイズで分からないことがその場でMPI職員に聞くことが出来て、理解力が深まったとサラワン県の県計画投資局(DPI)職員も話していました。ただ、大事なことは「研修に参加することが目的」なのではなく、この研修で得た知識、手法が日常の実務で活かされていくことだと思います。各DPIの職員の方々がそれぞれの職場に戻られて、より良い公共投資事業の運営、管理の為に、今回の研修を役立てられることを願っています。

飯塚隊員（カムアン県計画投資局） ～セミナー&研修に参加して～

こんにちは。カムアン県DPI配属の飯塚大成です。私はセミナー（11月1～4日）、中部対象の研修（11月8～12日）に参加させていただきました。財務に関する演習では参加者が互いに教えあう場面があったり、ワークショップでは参加者同士の白熱した議論が見られたりと、参加者の積極的姿勢を感じました。研修はMPI職員の運営で行われ、若手職員が講師役を務めたり参加者をファシリテートする活躍も目立ちました。PCAP2は最終年次を向かえており、MPI、DPI双方がPIP運営管理のやり方を深く理解しているのはもちろんのこと、自分たちが主導していくのだという意気込みが伝わってきました。



事業審査の質を高めるための具体的な計画を練る飯塚隊員（左から2人目）とカムアン県計画投資局職員のみなさん

4年次の活動予定

2010年10月から4年次の活動がスタートしました！ 最終年次の活動予定を紹介します。

年月	主な活動
2010年 10月	・ 4年次活動開始 ・ PIP予算策定研修、財務管理研修のモニタリングと研修の改訂（10～11月） ・ 郡レベルPIP運営監理方法と研修のモニタリングとハンドブック改定（10～12月）
11月	・ 県及び中央省庁への研修実施（ビエンチャン）（11～12月）
12月	・ 県及び中央省庁への研修実施（ビエンチャン、各県・省庁）（12～1月） ・ ODAカウンターパートファンドの運営監理方法改善案と研修のモニタリングとハンドブック改定（12～1月）
2011年 1月	・ 法令執行後の執行状況モニタリング（1～3月）
2月	・ 第6回合同調整委員会（JCC）会議 ・ MPI、県及び中央省庁へのOJT（各県・省庁）（2～5月）
3月	
4月	・ マレーシア第三国研修
5月	・ JICA終了時評価 ・ 研修及びPIP審査・モニタリング・評価結果の評価（5～7月） ・ ODAカウンターパートファンドの運営監理方法改善案と研修のモニタリングとハンドブック改定（5～6月） ・ 郡レベルPIP運営監理方法と研修のモニタリングとハンドブック改定（5～6月）
6月	・ PIP予算策定研修、財務管理研修のモニタリングと研修の改訂
7月	・ 法令執行後の執行状況モニタリング（7～8月） ・ 研修・OJT対象組織に対するOJT評価分析結果のフィードバック（7～8月） ・ 研修制度化へ向けた協議の実施（7～8月）
8月	・ 最終セミナー ・ 第7回JCC会議

プロジェクトスタッフ紹介

●新しい業務調整員が赴任しました●

New Project Coordinator

中村千尋 *Chihiro NAKAMURA*



カリブ海の島国、セントルシアにて

はじめまして。サバイディー！

4年次よりPCAP2の新メンバーとして加わりました、中村千尋です。PCAP2は内容がとても難しそうなプロジェクトなので、緊張してラオスに参りましたが、スタッフ同士の仲も良く、オフィスも非常に優秀なローカルスタッフのおかげで円滑に業務が回っていて、最初の不安はどこへやら。ビエンチャンもとても住みやすい街で、非常に充実した毎日を過ごしています。

私はラオス語が全くできないので、日々少しずつ勉強して、派遣期間中には屋台での注文ができるくらいまでになりたいと思います。ぜひ皆さん、私を見かけた際にはラオス語を教えてくださいね。至らない点多々あるかと思いますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

● 編集後記 ●

ラオスに赴任して初めての週末、ブン・オークパンサーがありました。7月26日のブン・カオパンサーから始まった、3ヶ月にわたる僧侶たちの修行が明ける日だそうです。夜には悠々の流れを湛えるメコン河で『灯籠流し』が行われます。バナナの葉や、花で作られた小船型の灯籠に蠟燭を灯し、願いを込めて流します。私もPCAP2最終年次の活動の成功を祈って灯籠を流しました。（文：中村）

【ニュースレター次号予告】第6回JCC会議、研修終了報告をお伝えする予定です。どうぞお楽しみに！

プロジェクトでは、皆様のご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。

【お問い合わせ・送付先】

- プロジェクトオフィス：Ministry of Planning and Investment, Avenue Souphanouvong, Vientiane
- 郵送先：C/O JICA Laos Office, P.O.Box 3933, Avenue Souphanouvong, Vientiane
- 電話・ファックス：+856(0)21.243.687
- Eメール：pcap2@icnet.co.jp
- ホームページ：http://www.jica.go.jp/project/english/laos/0700667/index.html

いよいよ最終年次というのに、ラオス語はほとんどわかりません。やっと覚えたのは「ポーベンニャン」。便利な言葉ですね。でも仕事では「脱・ポーベンニャン」ということでよろしく。その代わり17時以降は何でも許しちゃいます♥（徳良）

